とうきょう　すくわくプログラム
2024年度活動報告書
杉並井荻雲母雲母保育園

テーマ【自然との関わり(生き物…植物)】

設定した理由・背景

虫や花に興味をもち、戸外にでて自然で遊ぶことが好きな事から、自然との関りをより深めるため。

用意した環境設定

・自然物を使って遊べる環境を作った。
・購入物品
ライト付き内視鏡カメラ、シャーレ、スポイト、トレース台、ホワイトボードシート、ライトテーブル、色鉛筆、色画用紙、色画用紙、三脚、プロジェクター、ケーブル、ケース、パソコン、ドック、アダプタ、ケーブル、マウス、プロジェクタースクリーン、顕微鏡、スマホ、SDカード、ケース、ストラップ、ラミネート

活動のあゆみ

12月
・散歩や園庭で、自然物に触れる。
・保育活動の時間にきのこ栽培をし、観察したり、絵を描いて看板作りをしたりする。
・保育活動の時間に自然物を使って表現活動をする。

1月
・保育活動の時間に散歩に行き、自然物を収集する。
・保育活動の時間に自然物について観察し、調べる。
・その自然物を使って、草相撲をして遊ぶ。

2月～3月
・自然物を使って様々な遊びをする。

❀探究活動の実績❀

①お遊戯会で相撲を取り入れた事で、相撲に興味を持っていた為、「他にも色々な相撲があるけど知ってる？」と問うと、「知らない」と誰も知らなかった。そこでイラストを見せながら様々な種類の相撲があることを伝えると更に相撲に興味を示し真似をしていた。その中で、草相撲の事を伝えると、「どうやってやるの？」と子ども達が興味を示していた。

↓

②草を使った相撲があることを知り、「園庭に生えている草花でもできないかな」と子ども達から意見が出た。実際に園庭で草花を探すが、「冬だからみんな枯れているね」と気付き、園庭に生えている草花では難しいと子ども達が悩んでいる様子であった。そこで「散歩に行って探しに行くのはどう」と保育者が尋ねると、「いいね」「何処の公園ならたくさん生えてるかな」と、何処の公園なら草相撲が出来そうな草があるか子ども達で相談して決める姿が見られた。

↓

③散歩へ行き、公園内の草花を探し見つけると、子ども達同士で「こっちにいっぱいあるよ」「これは長いよ」など教え合う姿が見られた。また、見つけた草の様子をその場で観察し、「この草は長いから相撲がしやすい」「太いから強そう」「引っ張ってみて切れないのが強いと思う」など、草花の種類や太さ、大きさなどによって切れにくいなど自然物に様々な違いがあることを発見していた。
・持ち帰った草花をグループに分かれて観察し、草花の名前や特徴などを発表しあい、実際草相撲をした。また、自然物の形状や色、種類などの違いに気づいたことで自然物をデコレーションするなどして楽しめることも発見し、収集した自然物を使ってクリスマスのオーナメントを制作し、どこが気にいっているか、どこが苦労した所かなど発表をし、クリスマスツリーに飾った。

↓

④園庭や散歩先で草花や枝を見つけるたびに「強そうな草見つけたから草相撲しようよ」と、子ども達で誘い合いながら草相撲をして遊ぶ姿が見られた。また、負けて悔しかった子は枝を拾ってきて「これなら固いから絶対に勝てる」と様々な草花の特徴を考えながら楽しんでいた。散歩の道中、様々な草花を見つけては保育者や子ども達でどんな花なのか確認し合う様子が伺え、名前の分からないものに関しては、保育室内にある図鑑を使って自分たちで調べていた。また、その草花を見つけると名前を言って友達や保育者に教える姿が見られ、探求活動を通してより植物に興味を持つようになった。

自然物を調べている様子

草相撲をしている様子

自然物を使って制作している様子

きのこを収穫している様子

まとめ

・図鑑ですぐに調べることが出来る環境を整えておいたことで、散歩や園庭から保育室内に戻ると直ぐに図鑑で調べる姿が見られるようになり、以前より植物に興味を持つようになったと感じた。
・戸外で草花を見つけるたびに調べた名前を口にする姿が見られ、知らない草花を見つけると、どんな名前なのか、どんな花が咲くのかなど更に自然物に対して調べたり、考えたりる姿が見られるようになった。
・今後も自然物を使った遊びを積極的に取り入れ、もっと子ども達の不思議を探求していけるようにしていきたい。

とうきょう　すくわくプログラム
2024年度活動報告書
杉並井荻雲母雲母保育園

テーマ【自然との関わり(水の中の生き物)】

設定した理由・背景

お泊り保育で川遊びをしてから、生き物に対してより興味を持っている様子が伺え、園で飼っているメダカを見て、「どうやって寝ているの」「どうやって息をしているの」と問う姿を見て、更に水や水の中の生き物について興味をもって欲しいため。

用意した環境設定

・メダカの飼育、お世話をし、生き物を身近に感じることが出来るようにした。

三脚、プロジェクター、ケーブル、ケース、パソコン、ドック、アダプタ、ケーブル、マウス、プロジェクタースクリーン、スマホ、SDカード、ケース、ストラップ、ライト付き内視鏡カメラ、シャーレ、スポイト、トレース台、はさみ、顕微鏡

活動のあゆみ

1月

・保育活動の時間に生き物について観察をする。

・鯛の丸焼きを給食で提供し、観察をする。

２月～３月

・日々観察をしながら、餌やり、掃除などお世話をする。

❀探究活動の実績❀

①園で飼っているメダカを見て、「どうやって息をしているの」と問う子どもの姿があったため、「空気って知ってる？」と保育者が問うと、「知ってるよ」「風船の中にあるよ」「自転車のタイヤの中にも空気があるよ」と返ってきた。そこから「どうして空気があるの？」「どうして息ができるの？」という子ども達からの発言があり、草花も生きており、みんなが息できているのは草花があるからなのだと伝える。

↓

②「水の中に空気はあるかな？」という保育者の問いに、「プールの中は息が出来ない」と子ども達から声が上がり、「どうしてメダカは水の中で息が出来るの」という声が上がった。玄関で飼育しているメダカの水槽をよく観察してみるよう声をかける。

↓

③水槽の中には水草があり、それが水の中の空気を作っているから、メダカが息をすることが出来ると気付く。水槽の掃除をする際、「臭い」と言って嫌がる姿があったが、みんなと同じでメダカもご飯を食べたらウンチをすることを伝える。すると、「メダカは自分で掃除することが出来ないから、人が掃除してあげないとお家の中がウンチだらけになってしまう。」と子ども達同士で話し、掃除をする姿が見られた。

↓

④毎朝メダカに対して興味や愛着を持ち、餌をあげたり、話しかけたりする姿が見られるようになった。また、水槽が汚れていると「掃除をしなきゃ」と子ども達の方から気付いて保育者に教えるようになり、生き物を大切にする発言や行動が増えた。

水槽に入れる水を準備する様子

水草を洗う様子

水槽を洗う様子

まとめ

・私たち人間も、他の生き物も、生きるには「空気」が必要ということがわかり、そして「水の中にも空気がある」という事に気づくことが出来ていた。子ども達に「空気はどこにあるのか？」と聞いた際に、「地球のどこにでもあるよ。でも宇宙にはないんだよ」と答える子がいた事に驚かされた。

・実際に給食で鯛の丸焼きを提供したことで、実物を見て魚の骨や身の色など知らないことがわかり、その反応や興味津々な様子に、実際に見て体験することの大切さを改めて感じた。

・保育室内にいつでも調べられるよう図鑑を用意していたこともあり、不思議に思ったことや疑問に思ったことをすぐに調べることが出来たが、メダカの飼育は玄関のみで行っていた為、保育室内で飼育できる環境を整え、より身近に観察できるよう今後していきたい。

とうきょう　すくわくプログラム
2024年度活動報告書
杉並井荻雲母雲母保育園

テーマ【自然との関わり(色)】

設定した理由・背景

子ども達は落ち葉や草等の色の変化に気づき、様々な色に興味を持っている姿が見られるため。

用意した環境設定

・自然物を使って観察できるような環境を作った。

三脚、プロジェクター、ケーブル、ケース、パソコン、ドック、アダプタ、ケーブル、マウス、プロジェクタースクリーン、スマホ、SDカード、ケース、ストラップ、板締染色用和紙、新配色カード

活動のあゆみ

12月

保育活動の時間に散歩に行き、落ち葉や自然物に触れ、収集する。

1月～3月

・保育活動の時間に自然物について観察し、調べる。

・登園時に草花を拾ってきては、保育室内に飾り、観察したり調べたりする。

・絵具やクレヨンを使って自由に制作し、色の変化を楽しむ。

❀探究活動の実績❀

①園庭で色鬼を始める前に「園庭にはどんな色があるかな？」と保育者が問かけると、子ども達は遊具やフェンス、建物など自然物以外の物の色を見つけていた。その後散歩先で色鬼をした際に「身に着けている物も、遊具もなしで色鬼出来るかな？」と問いかけ、実際に遊んでみると「この花は〇〇色だね」「こっちの葉っぱは〇〇色だよ」など自然物の色に対して様々な気づきがあった。

↓

②散歩中に猫じゃらしを見つけた子がいたので、「どうして茶色なんでろうね」と保育者が問いかけると、子ども達から「猫じゃらしは夏は緑色なのにこれは黄色だね」「枯れてるんじゃない」などの声が上がった為、調べてみようかと園に持ち帰って図鑑で調べてみることにした。

↓

③グループに分かれて図鑑を使い、猫じゃらしの観察をする。図鑑と見比べると「色が違うからどれが同じかわからない」と苦戦する様子が伺えた。調べ終わった後には、草花の名前や色の特徴などをグループごとに発表をした。その後も部屋の中や身の回りにあるものから似ている色を探したり、子ども達同士で何色なのか考えたりする様子が伺えた。その中で、色鉛筆の色と比べている際に、「同じ緑でも違う緑がある」ということに気付き、子ども達で似ている色探しを楽しむ姿も見られた。
制作活動の中で絵具を使用した際に、絵具の色が混ざり、色が変わっていく様子を楽しみ、どの色を混ぜたらどんな色になるのか、観察する姿が見られた。

↓

④登園時に見つけた草花を室内に持ってきては、小さなボトルに入れてお世話する姿が見られた。また、その拾ってきた草花の名前を図鑑で調べ、保育者や子ども達同士で色の違いについて教え合っていた。
窓から見える木に対して葉っぱの色を気にする姿が見られるようになり、景色や窓の外、草花だけではなく雲や空の色など様々な自然物の色に対して興味を持つようになった。

拾ってきた自然物を仕分けする様子

図鑑を使って調べている様子

発表する様子

絵具を使って制作する様子

まとめ

・制作の際、探求する前は気に入った色ばかりを使って制作していたが、色について探求した後は、様々な色を使って制作を楽しむ姿が見られ、色を混ぜて塗ってみたり、グラデーションにしてみたりと工夫しながら制作する様子が伺えた。

・以前はカラーペンを貸してほしいときに「それ貸して」などと言っていたが、「〇〇色貸して」「〇〇色のペン持ってる人」などと具体的に色の名前を言うようになり、色の名前を知ったことや様々な色があることを学び、より意識するようになった。

・草花を通して様々な色を感じることが出来た為、引き続き様々な保育活動を取り入れて色に触れていけるようにしたい。

とうきょう　すくわくプログラム
2024年度活動報告書
杉並井荻雲母雲母保育園

テーマ【　体の動き　】

設定した理由・背景

戸外や室内などで沢山体を動かして遊ぶことが好きなことから、様々な体の動かし方を知り、楽しさをより知るため。

用意した環境設定

三脚、プロジェクター、ケーブル、ケース、パソコン、ドック、アダプタ、ケーブル、マウス、プロジェクタースクリーン、スマホ、SDカード、ケース、ストラップ、サッカーボール、マット、跳び箱、縄跳び、万歩計

活動のあゆみ

12月 室内サーキット遊び、戸外運動遊び

1/14()10：00～

体操教室　保育の時間に体操を行なう。

準備体操、ストレッチ、だるまさんが転んだ、立つ座る、猛獣狩り、鉄棒、マット運動、長縄

２月

・リレー大会

・園庭や室内で運動遊びを行なう。

３月

・園庭や室内で運動遊びを行なう。

❀探究活動の実績❀

①鉄棒がうまく回れないと悩んでいる子がいた為、「どういう動きをしたら鉄棒がうまくまわれるかな？」「体操の先生に聞いてみようか？」と問いかけると、子ども達から他の運動遊びも知りたい、やってみたいという声が上がった。

↓

②体操や運動遊びを楽しむ中で、「どんな体の動きが必要かな？」という問いに、「ジャンプ」「のぼる」など子ども達から声が上がった。それに対して「他にもどんな動きがあるかな？」と問いかけ、様々な運動器具を使って運動遊びを楽しみながら、体の動きについて探求した。

↓

③体操教室では、講師の先生に「鉄棒で逆上がりするときはガッツポーズをするといいよ」と脇を絞める動きを教えてもらい、実践する姿が見られた。その際、難しそうにしている子に対して順番を待っている子ども達が「ガッツポーズだよ」「頑張れ」などジェスチャーをしながら脇を絞める動きを教える姿が見られた。体操教室後も講師の先生に聞いたことを実践しようとする姿が見られ、園庭や散歩先で鉄棒に取り組む姿があり、積極的に体を動かして遊び、楽しんでいた。

↓

④体操教室だけではなく、普段の保育の中で体を動かす遊びを取り入れるようにしたことで、子ども達一人一人の出来ることが増え、保育者に「すごい」と言われると嬉しそうにしていた。援助の必要な子どもも回数を重ねるごとに集中して参加する姿が見られ、体の動きを学んだことで出来ることが増えていった。室内の鉄棒だけでなく、散歩先の公園にある鉄棒にも意欲的に取り組む姿が見られるようになり、その他にもボールや縄跳び、リレーで速く走る為の練習など様々なことに対して楽しみながら体を動かしていた。

体操の先生と運動遊びをする様子

リレーの練習をしている様子

縄跳びをする様子

3歳児が戸外で鉄棒に取り組む様子

まとめ

・リレー大会の練習では、どうしたら速く走れるようになるのか、子ども達同士様々な体の動かし方についてアイデアを出し合い、自由遊びの時間も練習に取り組んでいた。

・鉄棒では、逆上がりが出来るようになった子に憧れを持ち、繰り返し練習する子や、縄跳びでは、飛べる回数の更新に向け、何度も何度も繰り返し挑戦する子がいた。その積極的な子どもの姿を見て挑戦してみる子が増え、出来る子が出来ない子に体の動きを教える姿も見られるようになり、すぐに「できない」と諦めていた子も挑戦してみる姿がふえた。

・体操教室は30分という時間だったが、子ども達が興味を持って最後まで集中して取り組んでいた為、保育でも子ども達がわくわくしながら楽しめるような体を動かす活動や導入を考えていきたいと勉強になった。

とうきょう　すくわくプログラム
2024年度活動報告書
杉並井荻雲母雲母保育園

テーマ【　　絵本と異文化　　】

設定した理由・背景

絵本を通して異文化や、様々な国の言葉について興味関心をさらに深めるため。

用意した環境設定

三脚、プロジェクター、ケーブル、ケース、パソコン、ドック、アダプタ、ケーブル、マウス、プロジェクタースクリーン、スマホ、SDカード、ケース、ストラップ、英会話受講

活動のあゆみ

１月～３月

毎週火・水・木曜日に英語を行う。

英語の歌、単語、読み聞かせ、カード遊び、プリント

❀探究活動の実績❀

①英語を習っていて興味を持っている子がいた為、給食で果物が出た際に「英語でなんて言うか知ってる」と問いかけると、「〇〇でしょ」「知ってるよ」「英語習ってる」など子ども達から声が上がった。そこで、「英語を使ったらほかの国の人とお話しできるかな？」と尋ねると、「やってみたい」という子ども達の声が多く上がり探究活動を始めた。

↓

②フィリピンの講師とZOOMでのやり取りが始まり、「英語の先生は日本語がわからないんだって」と子ども達に投げかけると、「じゃあ、日本語を教えてあげよう」「英語であいさつするには何ていうのかな」など子ども達の中で考え、子どもたちが現地の講師と積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られた。

↓

③回数を重ねる度に、講師に対して興味を持つようになり、「どんなことを聞いてみたい？」と問うと、気になることなどを質問として考えるようになる。また質問では講師の答えを予想するようになり、「好きなジュースは何かな？」「ビールじゃない？」「ジュースじゃない？」「炭酸かな？」「炭酸って英語でなんていうのかな？」などと考えられる姿が見られた。講師の先生に英語で質問をして、なかなか伝わらずに悔しそうにする姿が見られたが、言葉が伝わったときには、質問をした子だけではなく一緒に参加している子も喜ぶ姿が見られた。事前に質問内容を考えた際、英語でどう伝えるのかわからず、なかなか伝わらなかったことから、質問を英語で考えるだけではなく、自分たちの好きなキャラクターの絵を描き見せるなどして伝えようとしていた。英語の絵本の読み聞かせをして英語に触れる機会をつくり、子どもたちが英語に親しみやすい環境をつくった。↓

④英語の絵本と同じ内容で日本語で書かれている絵本もあったため、子ども達は絵本の内容を理解し、自分たちで読んで楽しんでいた。また、生活の中で知っている言葉が出てきたときに英語を使う姿が見られるようになった。英語で何て言うのかわからない言葉に関しては「ワマ先生に聞いてみよう」と講師の先生に会える事を楽しみしている様子であった。最後の講義の日には「たくさん教えてくれたから手紙を書こう」と子ども達から声が上がり、保育者と一緒に英語でメッセージを書き、講師の先生に感謝の気持ちを伝える姿が見らた。

5歳児が英語の読み聞かせを聞いている様子

質問に答えている様子

質問の映像

最終日に講師に描いたメッセージ

まとめ

・取り組む前はよくわからず、恥ずかしそうに見ている姿が見られたが、回数を重ねるにつれてわかる英単語が増え、講師の先生の真似をして発音してみたり、身振り手振りや知っている単語を使って伝えようとしたりする姿が見らた。

・知らない言語でも相手に伝わった喜びが次の学びの原動力となり、積極的に英語で言葉や文化の異なる人とのコミュニケーションをはかろうとする意欲につながっていると感じた。

・英単語のカードや英語の絵本を保育室に置き、普段からも英語に触れられるようにしたことで、積極的に日常で英語を使う姿が見られたため、今後も子ども達が様々な国の人と交流を続け、様々な国の言葉や文化について興味関心を深められるようにしていきたい。